

2. 広域交流を促進する円滑な圏域交通体系の確立

【現状と課題】

北陸新幹線は平成26年度末までに金沢まで開業することが決定しています。それに伴い、県東部地域の玄関口として位置づけられる新黒部駅（仮称）の建設工事が進行しています。

新幹線の開業や新駅の設置に伴い、圏域における広域交流の活発化が予想されます。そのため、新駅にアクセスする北陸自動車道の利便性向上、新設工事が進行している国道8号バイパスなどの広域基幹道路網の拡充など、拠点市街地や既存の中心市街地、観光地へのアクセスの確保が必要です。あわせて広域的に利用しやすい二次交通の整備も求められます。

JR北陸本線、富山地方鉄道の利用者が減少しています。また、利用者が減少したバス路線も運行回数の削減または、廃止されるところが出てきています。

公共交通機関は圏域住民の日常生活や通勤・通学、高齢者など自らの交通手段を持たない、いわゆる移動制約者の足として重要な役割を果たしており、市や町で運行されているコミュニティバスとも連携を図るなど利便性の向上に取り組むとともに、利用の促進を図る必要があります。

また、圏域内道路交通の安全対策や拡幅による渋滞緩和などスムーズな交通を確保する整備の促進も求められます。

【北陸自動車道の圏域内インターチェンジ交通量】



資料：富山県統計年鑑「富山県」

注：圏域に近い立山、滑川インターチェンジを含む

【施策の展開】



①北陸新幹線新駅の整備促進

北陸新幹線新駅は県東部地域の広域交通の玄関口として位置づけられます。

計画地は田園風景が広がる北陸自動車道黒部ICに近接し、近くに富山地方鉄道本線、県道若栗生地線、黒部宇奈月線が通り、新たなアクセス道路も建設中であることから、景観保全に配慮した駅舎、駅周辺整備を促進するとともに円滑な乗り継ぎを確保するため広域的に利用しやすい二次交通の整備に努めます。

②国道8号バイパスなど幹線道路の整備促進

国道8号バイパスの工事着工区間の整備を促進するとともに、未着工区間についても早期の整備に努めます。

また、北陸新幹線、北陸自動車道など高速交通網整備と連動した広域基幹道路網の整備を促進します。

③JR、地鉄、コミュニティバスとの交通結節機能強化

JR、地鉄、各市町とも連携し、日常生活や通勤・通学者、高齢者の足として利用向上に向けた住民ニーズの把握に努めるとともに利用しやすいように交通結節機能強化を図ります。

④圏域内道路の整備促進

圏域内道路の交通安全対策や拡幅による渋滞緩和を図るなど、スムーズな道路交通の確保に努めます。